

Collaboration

日韓陶芸 WORK SHOP

日韓友情40周年を迎えた2005年は、日本・韓国の多くの地で開催された様々な文化・人的交流を通し、親しく友情を育み、心の交流が感じられ、より深い友好関係を持てたことを確信できた1年でした。

2007年、金津創作の森では、更なる文化・芸術交流を発展させるため、韓国伝統文化学校の崔成在教授と金沢美術工芸大学・久世建二学長を招待し展覧会を開催いたします。また、両作家と両校の学生の協力による陶芸ワークショップを通じて、新たな国際交流と陶芸の新たな可能性に触れることを目的としていきます。

●日韓陶芸ワークショップ

会 期 6月26日(火)～7月1日(日)

時 間 10:00～16:00

会 場 金津創作の森
創作工房 創作学習室他

受講料 12,000円(材料費込)
WORKSHOP2 6/28～7/1日分のみ参加の方は10,000円(材料費込)
詳細は下記の申込先にお問い合わせください。

定 員 30名

申込〆切 6月20日(水) 必着

●講師プロフィール

久世 建二(クゼ ケンジ) 陶造形・金沢美術工芸大学学長

1945年 福井県坂井郡芦原町生まれ(現:あわら市) 金沢市在住

1968年 金沢美術工芸大学産業美術学科工業デザイン専攻卒業
工芸大学院修士課程(工芸専攻)大学院博士後期課程
(美術工芸専攻)美術工芸研究所 教授 研究所長を歴任

2007年 4月1日 金沢美術工芸大学学長就任

●申込先 金津創作の森財団事務局 担当・中嶋/石山 〒919-0806 福井県あわら市宮谷57-2-19 TEL(0776)73-7800 FAX(0776)73-7805
※申込用紙を郵送もしくはFAXにてお送りください。

----- 切 り 取 り 線 -----
— ワークショップ申込用紙 —

住所

氏名

TEL () / 携帯

備考欄

※受講料12,000円は当日集金いたします。

「個人情報保護法」にもとづき、個人情報取扱い方針を定め、お客様の個人情報を責任をもって適切に取扱います。

●展覧会

Collaboration

～土の魅力・擬態する土／観照(Meditation)心想の世界～

会 期 6月12日(火)～7月1日(日)

時 間 10:00～17:00(最終入場は16:30)

会 場 金津創作の森 アートコア ミュージアム-1

休館日 月曜日

観覧料 一般(300円)・高校生以下無料

主 催 (財)金津創作の森財団

助 成 野村国際文化財団

協 力 韓国伝統文化学校・金沢美術工芸大学

後 援 (財)福井県文化振興事業団

越前・加賀みずといで湯の文化連邦

あわら市観光協会 福井新聞社 北國新聞社

NHK福井放送局 FBC福井放送 福井テレビ

北陸放送 石川テレビ テレビ金沢 北陸朝日放送

福井ケーブルテレビ株式会社

さかいケーブルテレビ株式会社

FM福井 月刊URARA編集室 (株)金沢倶楽部

招待作家・久世建二による

公開制作 6月17日(日) 10:00～

作品解説 6月17日(日) 13:00～

崔 成在(チェ ソンジェ) 韓国国立伝統文化学校美術工芸学科教授

1962年 大韓民国 大田生まれ

1985年 広益大学校 美術大学 工芸課陶芸専攻卒業

1990年 広益大学校 大学院 陶芸専攻卒業

現在 韓国国立伝統文化学校美術工芸学科教授

● SCHEDULE ●

WORK SHOP 1

6月26日(火) オリエンテーション
(創作工房陶芸学習室 10:00～)

STUDIO WORK

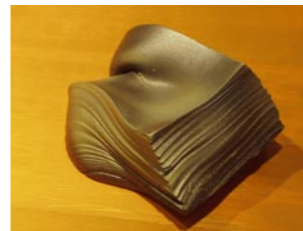
(創作工房 陶芸学習室13:00～16:00)

講師 久世 建二

担当 金 正逸

『切断のかたち』

“切る”ということは、人間の潜在的意識の中に潜んでいる遊戯的な快感を感じる行為です。日頃、日常で行われる切断のかたちは、実に様々であります。ほとんどは本能によるもので行為の愉しみを感ずることはできないかも知れません。土を切断する行為は誰もがができるのではなく、自分で切り開いた土の断面を通じて、現代アートの新たな可能性に触れる時間になれると思います。



パターンⅠ



パターンⅡ



パターンⅢ

交流会・スライドレクチャー

(芦原青年の家 19:30～)

招待作家迎えささやかな交流会を行います。ふるってご参加ください。
自由参加。参加費無料。

6月27日(水) STUDIO WORK

(創作工房 陶芸学習室・野外 10:00～16:00)

『土・自然・人Collaboration タイルの制作』

担当 藤井一範

金津創作の森は、人と自然、アートが交差する場です。今回は土を素材にその特性を引き出したり、身近な自然の草木や大地からテクスチャーを抽出したりしながら、アートタイルの制作に挑戦します。始めに土の状態変化や可塑性から生まれる独特の表情の抽出を行い、次に自然の中から、多くのテクスチャーを粘土のチップに写し取っていきます。その過程から土や自然の持つ美しさやリズム、造形性を再認識し、受講者と共にアートタイルの可能性や活用法を探って行きます。

『土・爆発・人Collaboration 爆陶体験』

担当 藤井一範

“土”と“爆発”と“人”との究極のCollaboration『爆陶』。一人の人間としてあなたは何を考え、何を思い、何を感じ『爆陶』しますか？自然の恵みである土で形を作り、火薬で爆発させエネルギーに満ちた新たな造形を作り出す。非日常の刺激的なアートを実体験することで、人が持っている感性や感覚、好奇心を呼び起こし、現代アートや現代社会を考えるきっかけになればと考えます。



アートタイル



※参考画像『街がアートに、アートを街に...』より2003年



WORK SHOP 2

6月28日(木)～7月1日(日)

STUDIO WORK

(創作工房 陶芸学習室 10:00～16:00)

講師 崔 成在

『粉青紗器—Meditation』

チェ・ソンジェがつくりだす「粉青紗器」は、絶妙な余白と感傷的自由の深さを通じて視空間を呼吸する穏やかな息遣いをもっているという点で注目をされています。作品に一貫した命題である“観照”Meditationは、彼が醸し出す余白と緊密に順応した構造をもち淡青色のモノクロームとの間に張り詰めた緊張感を誘発する響きで、このように適切な余白を通じて表象された深さのある観照的事由の結果とも言えます。制作過程の楽しさを重視し、自分自身が楽しめるならば(自娛)その結果が良いはずがないという考えを持ち、現代の粉青紗器を指導する数少ない作家の列に名をつらねて久しいチェ・ソンジュの内面の響きが今回のワークショップを通じてより親密に近づくことを期待しています。



想. Meditation-Memory
28×28×28cm 2001



Meditation-In the Atum V I
Φ51×5.5cm
Stoneware Ashglazed 2004

6/28(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・石膏型を利用した皿制作 ・粘土板を使用した皿制作 ・紐作り技法による筆筒制作 ・紐作り技法による花瓶制作(20cm以下)
6/29(金)	<ul style="list-style-type: none"> 粉青彫花紋 粉青刷毛目紋様 粉青浸し懸け技法 <p>など韓国伝統文様施紋</p>
6/30(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・皿への装飾 印花紋技法 施紋 ・皿への装飾 彫花 剃地技法 施紋 ・花瓶の装飾 粉青彫花紋 粉青刷毛目文様 粉青印花文様 <p>など韓国伝統文様施紋 /茶碗制作</p>
6/30(土)	花瓶完成・茶碗完成
7/1(日)	予備日 (レクチャー等)

※内容等変更になる場合があります。
※作品は焼成後、後日着払いにて配送いたします。